

日本人口学会第 71 回大会のお知らせ

2018 年 12 月 5 日

日本人口学会第 71 回大会

大会運営委員長 村山 聡

大会企画委員長 黒須里美

日本人口学会は、第 71 回大会を 2019 年 6 月 1 日（土）、6 月 2 日（日）の 2 日間、香川大学において開催いたします。会員の皆様はもちろん、人口にご関心のある研究者や学生の非会員の皆様にも積極的にご参加いただければ幸いです。

大会では、下記の通りシンポジウム、3 つの企画セッション、1 つのテーマセッションを設定しています。企画セッションにおける報告は組織者により編成されますが、テーマセッションでは報告が公募されますので、自由論題と同様に積極的にご応募ください。会員総会、懇親会は 6 月 2 日(土)です。また、大会前日の 5 月 31 日(金)には巡検と特別セッションが開催されます。

セッションタイプ	タイトル	組織者	使用言語	備考
シンポジウム	瀬戸内の環境と人口（ヒトと動植物）： 新たな Population Study を求めて	村山 聡	Japanese	一般公開(6/1)
企画パネル 1	天明・天保期の東北地方における気候と 人口－歴史気候学と人口学との対話－	川口 洋	Japanese	(6/2)
企画パネル 2	性に関する情報と人口	小西祥子	Japanese	
企画パネル 3	<i>Child Bearing, Child Rearing and Child Survival in South Asia</i>	Dilhani Wijesinghe, Satomi Kurosu	English	
テーマセッション	家族・価値観・幸福	影山純二	Japanese	公募
特別セッション	第 6 回「地方行政のための GIS チュート リアルセミナー」	井上 孝	Japanese	(5/31)
自由論題 セッション			Japanese/ English	公募

* 詳細は 3 ページ以降(パネル番号は、プログラム編成上、変更の可能性有)

* 巡検(5/31) 「豊島巡航：人口・産廃・アート」(組織者：村山聡) 高松築港 10:45 発予定

* 特別セッション 16:00-19:00 予定 (巡検後の参加可)

【出欠の登録ならびに報告の応募】

報告の申込みの受け付けや大会への出欠に関する登録用 Web サイトは現在準備中です。準備ができ次第、学会メーリングリストを通じて改めてお知らせしますので、予めご検討ください。なお、大会へは非会員でも参加可能ですが、テーマセッションや自由論題での報告には日本人口学会の会員資格が必要です。また、シンポジウムと企画セッションの報告は公募ではありません。

【報告要旨の Web へのアップロード】

実効性のある報告内容の情報提供を図るため、要旨等の報告内容の情報はすべて学会メーリングリストやホームページを通じて閲覧ならびにダウンロードできるよう準備しております。報告要旨集の紙媒体による印刷・製本物の配布はいたしません。

【会場】

香川大学幸町キャンパス（〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号）

会場の地図ならびに交通アクセスは下記リンク先をご参照ください。

<https://www.kagawa-u.ac.jp/access/saiwai/>

参加費等のご案内は、開催校より改めてお知らせいたします。また、本大会は香川大学・地球ディベロプメントサイエンス国際コンソーシアム (ICEDS) との共催を予定しております。

【大会関連のお問い合わせ先】

*テーマセッションの内容については下記の組織者へ直接ご確認ください。

□ テーマセッション 影山純二（明海大学） kagejun@meikai.ac.jp

*その他については下記までお問い合わせください。

□ 大会企画委員会（企画内容、報告登録など）

大会企画委員会委員長：黒須里美（麗澤大学） skurosu@reitaku-u.ac.jp

大会企画委員会 ML: paoj2019@gmail.com

□ 開催校（会場関係、報告設備、参加費支払など）

大会運営委員会委員長：村山聡（香川大学） muras@ed.kagawa-u.ac.jp

□ 学会事務局（会員資格や入会手続き等について）

日本人口学会事務局（学会支援機構内） paoj@asas-mail.jp

<シンポジウム> (一般公開) *Symposium*

瀬戸内の環境と人口 (ヒトと動植物) :
新たな Population Study を求めて
*Seeking a new population study: Flora, fauna, and humans
living in and around the Seto Inland Sea*
(2019年6月1日土曜日午後、香川大学幸町キャンパス)

組織者：村山聡 (香川大学)

通常, Population は, 日本語では人口と訳しますが, その言葉は人間の数だけを示すものではありません. ヒト以外にも動植物特に動物や魚類の個体数を問題にします. つまり, ヒトと動植物の数の重さ = 個体群 = Population の研究に関して, 瀬戸内の環境と人口に焦点を絞り, 新たな問題提起ができればと考えております.

基調講演：

村山聡 (香川大学教授) (環境史・経済史)

「瀬戸内で生きることと生活様式の転換期」

田中丈裕 (元岡山県水産課長・NPO 法人里海づくり研究会議事務局長) (魚類学・水産全般)

「瀬戸内の魚介類と漁業と生態系」

話題提供：

中西正光 (香川県環境森林部環境管理課 里海グループ グループリーダー・課長補佐)

「里海プロジェクト」

パネルディスカッション：

ディスカッサント

中澤港 (神戸大学教授) (人類生態学) 「人的資源から考える」

影山純二 (明海大学教授) (生物経済学) 「漁業資源から考える」

原直行 (香川大学教授) (地域活性化論) 「観光資源から考える」

参考文献：

宮本常一『私の日本地図：宮本常一著作集別集』全15巻，未来社（2008年3月より刊行）

第4巻『瀬戸内海 I 広島湾周辺』未来社，2014年7月1日（初版 1968年5月15日）

第6巻『瀬戸内海 II 芸予の海』未来社，2011年2月25日（初版 1969年6月10日）

第9巻『瀬戸内海 III 周防大島』未来社，2008年3月31日（初版 1971年3月30日）

第12巻『瀬戸内海 IV 備讃の瀬戸付近』未来社，2015年1月30日（初版 1973年7月1日）

瀬戸内海研究会議編『瀬戸内海を里海に—新たな視点による再生方策』恒星社厚生閣，2007年1月20日

<企画セッション1> *Panel Session 1*

天明 - 天保期の東北地方における気候と人口 - 歴史気候学と人口学との対話 -

Climate and population in the 18-19th century north-eastern Japan:

A new collaboration between demography and climatology

(2019年6月2日日曜日)

組織者：川口 洋 (帝塚山大学)

座 長：林 玲子 (社会保障人口問題研究所)

討論者：鬼頭 宏 (静岡県立大学)

趣旨： 人口学の役割は、過去・現在の人口変動とその要因を総合的にとらえ、人口変動を時間軸と空間軸のなかに位置づけ、将来予測につなげることにある。そのためには、人口変動の要因となる自然環境、社会環境に注目して、人口学に隣接する諸分野と対話を始めることが喫緊の課題である。本セッションは、人口学と歴史気候学とのキックオフ・ミーティングであり、天明 - 天保期の気候と人口変動との関係について討論する。

北関東以北では、18世紀初頭を頂点として人口が減少を続け、とくに宝暦期(1750年代)年、天明期(1780年代)年、天保期(1830年代)の凶作のため、死者・欠落者が多数に上った。飢饉の状況は、主として藩政史料により復原・検討されてきた。

一方、歴史人口学は、「宗門改帳」や寺院「過去帳」などのマイクロデータによって、人口・家族復原を続けている。歴史気候学では、古日記に記されている天気、江戸時代末期の気象観測記録などのマイクロデータにもとづいて、18-19世紀の日本における気候復原が本格化した。宝暦・天明・天保飢饉の具体像を復原するには、人口変動の復原とともに、民衆の生活を詳細に記録した史料の発見に努め、異常天候、農業、作況、商品流通、食生活、さらには死因に接近を図る必要がある。

本企画セッションでは、歴史気候学の専門家とともに天明 - 天保期の人口減少要因に接近するため、東北地方における気候と人口変動との関係について検討したい。具体的には、7-9月の日照不足や低温障害などが確認できるのは宝暦・天明・天保期だけなのか、日照不足や低温障害が農作物の作況にどのように影響するのか、百姓の主食は何か、凶作時にどのような人口変動が観察できるのか、死亡危機が確認できるのは宝暦・天明・天保期だけなのか、凶作とは無関係な死亡危機も確認できるのかといった諸課題があげられる。

報告予定者と仮題

第1報告：気候と人口の研究の共通言語を考える - 気候研究者は何を提供できるだろうか -

(増田耕一・首都大学東京)

第2報告：日射量でみる天保期 - 日記天候記録を用いた気候復元 -

(市野美夏・人文学オープンデータ共同利用センター)

第3報告：18 - 19世紀の歴史気候資料による気候復元 (平野淳平・帝京大学)

第4報告：18 - 19世紀の会津・南山御蔵入領における天候・作況・農業・人口 (川口洋・帝塚山大学)

第5報告：18 - 19世紀の飢饉・短期経済変動と二本松藩の人口 (黒須里美・麗澤大学)

第6報告：東北地方の寺院「過去帳」からみた18-19世紀の死亡危機 (溝口常俊・元名古屋大学)

<企画セッション2> *Panel Session 2*

性に関する情報と人口

Population and information about sexuality

組織者：小西祥子（東京大学）

座長：森木美恵（国際基督教大学）

討論者：仙波由加里（お茶の水女子大学）

趣旨：

少子化が継続する日本では、世界でもっとも多くの不妊治療が行われている。治療によって子供を得るカップルがいる一方で、精神的・身体的・経済的負担を抱えながらも子供を得られない者も多い。諸外国と比較して日本ではより長い期間にわたって不妊治療を継続する傾向があり、養子縁組をすることや子どもを持たないことなど多様な選択肢から男女が積極的に選び取る状況には至っていない。このような現状は、日本における性や妊娠出産に関する情報のあり方と関係しているかもしれない。なぜならこれらの情報は性交や避妊といった性行動をはじめとして、子どもを授からない場合の対処方法（どのような不妊治療をどのくらいの期間受けるのか、養子縁組を考えるか、夫婦で生きていくことを選ぶか等）にも影響を及ぼすからである。本セッションでは、学校や家庭における性教育および、一般向けの書籍やウェブサイト、マスメディアにおける情報等について、世界と日本の対比、日本における歴史的変遷を軸としながら、現在の日本における性に関する情報の特徴を整理し、人口との関連について議論したい。

報告予定者と仮題：

林玲子（国立社会保障・人口問題研究所）『包括的性教育（Comprehensive Sexual Education）』
をめぐる国際的な議論について」

橋本紀子（女子栄養大学）「世界から見た日本の性教育」

赤川学（東京大学）「明治期の性教育言説」

田所聖志（秋田大学）「文化人類学からみた性に関する情報の社会における伝達」

<企画セッション 3> *Panel Session 3 (English)*

Child Bearing, Child Rearing and Child Survival in South Asia

Organizer: Dilhani Wijesinghe, Satomi Kurosu (Reitaku University)

Chair: Satomi Kurosu (Reitaku University)

Discussants: Noriko Tsuya (Keio University) ; Yuiko Nishikawa (Josai University)

This session is aimed to discuss patterns and factors related to reproduction, child mortality, as well as the characteristics of child rearing among population in South Asia. South Asia consists of eight developing countries. While three of those countries such as India, Pakistan and Bangladesh are within the ten most populous countries in the world, Sri Lanka and Maldives have achieved major improvements in various demographic indicators. Thus, inter-country socio-cultural, ethnic, religious, economic and political backgrounds significantly varies, exhibiting a great diversity within the region. It is of great interest to compare reproductive patterns and child rearing environment in various socio-cultural contexts in South Asia.

The discussion includes (1) behavioral patterns of child bearing and child rearing, (2) socio-demographic and cultural/religious factors associated with child bearing and child rearing, and (3) child survival/mortality in various communities in South Asia. Both qualitative and quantitative methodological approaches are used. This session is a great opportunity to explore the relationship between demography and diverse cultural/religious context in South Asia. In addition, since the PAJ has done very little on South Asia in its past annual meetings, this proposed session is expected to fill such a gap.

Presenters:

Dilhani Wijesinghe (Reitaku University) “Reproductive Behavior in Sri Lanka”;

Shakil Khan and Ai Sugie (Tokyo University of Foreign Studies)

“Fertility Transition and Female Roles in Rural Bangladesh”;

Nazmul Huda (Bangladesh University of Engineering and Technology)

“Determinants of Child Mortality in Rural Areas in Bangladesh: A Sociological Investigation”;

Mizuho Matsuo (National Museum of Ethnology) “Medical Termination of Pregnancy and Female Infanticide in India”.

<テーマセッション> (公募) *Theme Session*

家族・価値観・幸福
Family, Values and Happiness

組織者： 影山純二（明海大学）

座長： 未定

討論者： 未定

趣旨：

本セッションでは、主観的データを用いた人口学的分析に焦点を当てる。特に家族を中心に添え、家族構成やその動態が、価値観や幸福度といった主観的データとして捉えられる指標とどう関連するか分析を深めたい。その上で、分析から得られた結果について、理論的および客観的データを用いて整合性を討議し、今後のこの分野の研究の方向性を議論したい。加えて、主観的データを用いる際に共通して問題となる「指標の適切さ」や「結果の頑健性」について改めて考察したい。

応募に際しては、上記の内容に当てはまる研究であれば、価値観や幸福度に関わらずとも歓迎である。中でもグローバルな視点や領域横断的な視点を含む研究や、客観的データでは不可能だったが、主観的データを用いたからこそ得られた人口学的知見を含む研究を期待する。

<特別セッション> *Special Session*

第 6 回「地方行政のための GIS チュートリアルセミナー」

The 6th GIS Tutorial Seminar for Administrators

2019 年 5 月 31 日（金）（大会前日）

組織者：井上 孝（青山学院大学）

座 長：未定

討論者：なし（チュートリアルセミナー形式なので設けない）

報告予定者：

鎌田健司（国立社会保障・人口問題研究所）

長谷川普一（新潟市）

細江まゆみ（札幌市）

井上 希（国立社会保障・人口問題研究所）

井上 孝（青山学院大学）

趣旨：

昨今、GIS（地理情報システム）の急速な普及と人口データの利用環境の向上によって、市区町村レベルあるいはそれ以下のいわゆる小地域レベルでの人口分析が容易に行えるようになった。これらの人口分析の技法は、少子・高齢化対策、過疎対策、都市計画、防災、地域医療・福祉など、地方行政のさまざまな分野で大いに役立つことが期待できる。しかし、そうしたノウハウを啓蒙する機会が公的機関や一部の地方自治体が主催するセミナー等に限られており、必ずしも進んでいるとはいいがたい。一方、日本人口学会はそうした人口分析の技術を有する専門家が多数所属しており、そうした技法を地方の行政担当者へ伝達することも学会の社会的貢献の一つと考える。本セミナーは、多数の参加者が集う大会開催時にこうした趣旨を実行に移すべく企画されてきたものであり、今回は第 1 回（京都大）、第 2 回（東京大）、第 3 回（札幌市立大）、第 4 回（明治大）、第 5 回（椋山女学園大学）に続き 6 回目となる。

過去 5 回のセミナーでは、関西地方（第 1 回）、関東甲信越地方（第 2, 4 回）、北海道地方（第 3 回）、東海・北陸地方および静岡・滋賀（第 5 回）の全自治体に案内状を送付し、いずれも多数の行政担当者に参加いただいた。その結果、参加者からこの企画の継続を要望する声が多数寄せられ、たいへん有意義なセミナーとすることができた。今回は、香川県で大会を開催するにあたり中国・四国地方および兵庫の全自治体に案内状を送付し参加者を募る予定である。